

一 見仏聞法 信受教誨きょうげの事

仰せに云はく、此の經文は一念隨喜の人は五十の功德を備ふべし。然る間見仏聞法の功德を具足せり。此の五十展てんでん轉の五十人の功德を隨喜功德品に説かれたり。仍って世々生々の間、見仏聞法の功德を備へたり。所詮末法に入りて仏を見るとは壽量品の釈尊、法を聞くとは南無妙法蓮華經なり。教誨とは日蓮等の類たぐい教化する所の諸宗無得道の教誡なり。信受するは法華經の行者なり。所詮壽量開顯まなこの眼顯はれては、此の見仏は無作の三身なり。聞法は万法己々の音聲おんじょうなり。信受教誨は本有隨緣真如ほんぬずいえんしんによの振る舞ひなり。是即ち色心の二法なり。見聞とは色法なり、信受は信心りょうのう領納なれば心法なり。所謂色心の二法に備はりたる南無妙法蓮華經是なり云云。